

平成 26 年度

筑前町教育委員会の権限に属する事務の管理
及び執行状況についての点検及び評価報告書
についての学識経験者による意見

1. 福岡教育大学 教授 飯田慎司
2. 福岡県立朝倉東高等学校 元校長 谷口好幸

平成 26 年度筑前町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書について、意見を申し述べます。

I 教育委員会の活動について

教育委員会は会議規則に基づき、計画的に開催されている。会議開催について議事事務局に通告する等の取り組みがなされ、平成 26 年度には 9 名の傍聴者があった。今後は、会議開催についてホームページへの掲載を行うなどの広報の検討を継続するとともに、会議録の公開について、ホームページに議事録の要約筆記の掲載を検討することとしている。

教育委員の研修については計画的に行われている。筑前町における課題に関する研修がいかに行われているかについての情報提供を計画的に行うべきと考える。たとえば、全国市町村教委研修協議会の研修会に 4 名が参加しているので、研修内容やその成果を具体的に示すような試みがあるとよいのではないだろうか。学校及び教育施設に対する支援・条件整備については、学級参観型の訪問を 4 校、教育委員との意見交換会を 1 校実施しており、計画的に行われている。

II 教育委員会が管理・執行する事務

教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について、平成 20 年度事業から自己評価等が実施され、平成 22 年度事業から学識経験者による外部評価が行われている。委員会窓口での閲覧及びホームページ等への掲載を継続して行うこととしている。

III 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(学校教育)

1. 地域に開かれた学校づくりの推進

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の推進についての成果として、平成 26 年度も、熟議した内容の具現化において進展があったと評価できる。地域の独居老人へ児童が育てた花を贈る活動や、地域のボランティア等と連携した防災教育・防災訓練の実施、そして、三輪小中学校区共通した子育て指針「みわ道」の作成等の取り組みが具体的になされている。また、コミュニティ・スクールの取り組み状況等について、地域住民等へのホームページ等を通した広報がより充実してきている。学校評価の効果的運用については、評価の観点や妥当性を検討していくとともに、学校運営協議会全体で学校評価を行うこととしている。

2. 確かな学力をはぐくみ、個性や能力を伸ばす教育の充実

教育の機会均等を図る体制整備について、ICTを活用した学力の育成についての研究実践やその成果の共有、さらに、ユニバーサルデザインの授業づくりの視点を生かした授業改善が行われた。これらの取り組みに関する評価としては、「授業がどのように変わったのか」という視点を明らかにするとともに、取り組みの後においても、その成果を持続することが肝要であると考え。定期的な学校訪問を実施し、キャリアステージに応じた指導支援を計画的・継続的に行うこととしており、今後とも、地道な取り組みに期待したい。学力の定着を図る場の確保・充実について、学力調査で課題があった問題に対応する「フォローアップ資料」を活用した指導の充実が図られているが、こうした取り組みの成果の検証も大切である。進路獲得に向けたサマースクール、ウィンタースクールの充実についても、どのように充実させるのかという具体的視点が求められる。

教員の実践的指導力の向上について、筑前町研究指定・委嘱事業が一定の成果を挙げていると感じている。平成26年度は、三並小学校の「ICTを活用した学力の育成」の研究、夜須中学校の「心に響く道徳の授業づくり」の研究、そして中牟田小学校の県道徳教育推進事業の研究等を通して、筑前町の小・中学校教員の実践的指導力の向上を図る取り組みがなされた。今後は、小中学校合同授業研を通じて、教員の指導力の向上を目指すこととしており、研究成果の共有が期待される。

町一体となった学力向上の気運の醸成について、学力テストの分析結果等について、教育委員会や各学校のホームページ、そして町広報紙を通じて、町民へ普及啓発できたことは評価できる。教育施策説明会、学力向上研修会等を通じて、保護者や地域の理解と意識向上を図っていくこととしているが、家庭学習の時間や内容の向上につなげていくための町一体となったさらなる取り組みを期待したい。

3. 心づくり・体づくりの推進

キャリア教育における小・中一貫のカリキュラムを作成し配布し、さらに実践例を作ることができたことは評価できる。また、中学生が校区内の小学校に出向いて学習支援を行ったり、地域の行事等にボランティアとして積極的に参加したりしているのは、筑前町の従来からの素晴らしい取り組みである。道徳教育の充実・改善として、夜須中学校の「心に響く道徳の授業づくり」の研究や、中牟田小学校の県道徳教育推進事業の研究が、各校の道徳教育の充実につながるとともに、道徳教育に関する小・中一貫カリキュラムの年間指導計画への位置づけや実践例の蓄積にもつながっていくことを期待したい。

4. いじめ・不登校に対する生徒指導体制の確立

教育支援センターで、学校への支援復帰と学力の保障を行い、3名の生徒が途中復帰し、残り1名も高校へ進学することができた。また、スクールソーシャルワーカーが計画的に学校訪問を行い、学校だけでは解決困難な個別の問題等の解決に向けた効果的な活用が図られている。さらに、いじめに特化したアンケートや校内対策委員会を計画的に実施して、いじめの早期発見に取り組むことや、専門家による人間関係形成能力育成に関する効果的な教員研修を行うことなどが改善・推進策として挙げられている。各学校の「学校いじめ防止基本方針」に従った取り組みの充実にも期待したい。

5. 特別支援教育の充実

普通学級に在籍する発達障害が疑われる児童・生徒の個別の指導計画を作成し、特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりを充実させることが改善・推進策に挙げられているが、その成果についても検討されたい。個々の教育的ニーズに対応する人的支援については、8名の特別支援教育支援員を町費で各学校に配置するとともに、県の指導主事を招いた研修会を通して専門性の向上や計画的活用を図っている。

6. 人権教育の推進

教育施策説明会だけでなく、定期的な学校訪問によって、学校の教育活動全体を通して人権教育の推進を図るよう指導・支援を行っている。また、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」の共通理解が図られようとしている点を評価したい。

7. 教職員の資質向上と人材育成

人事評価に関して、各学校で個票を作成し、校務、学級経営、授業等における客観的な評価を行うとともに、各学校で計画的に個人面談を実施している。また、教職員派遣研修に関しては、経験年数や職務内容に応じた研修を行えるようにするとともに、教職員一人一人の職務やキャリアステージに応じた研修内容を工夫することとしている。

(社会教育)

1. 特色ある学習プログラム提供による成人事業の充実

成人学級・講座について、単に学ぶことだけではなく、人と人とのつながりを醸成し、その活動を地域に広げることのできるプログラムを準備し、地域や学校への学習成果の還元を図ることが改善策に挙げられているが、最少開講人数に達しない講座が出るなど改善すべき点があるように思われる。

2. 子ども読書活動推進計画をはじめとした読書活動の推進

「小学生読書リーダー育成講座」で読書リーダーを育成し各小学校の読書活動の促進につなげている。また、「毎月23日は読書の日」とし、この日は省テレビ、省ゲームデーで家族で読書活動を行う日として啓発している点も評価できる。

3. 生涯スポーツの普及促進による健康増進

「健康づくり地域交流フェスタ」を実施して、地域における高齢化、少子化に対応し、3世代間の交流と健康増進を図ったことは評価できる。

4. 多様なニーズに応える自主文化事業の充実

毎年度、多様なニーズに応じて同事業が行われており、継続的な働きかけや申請等によって、計画的に実施されていることを評価したい。参加型の企画によって、聴くことや観ることに加えて体験する機会も提供して、町民ホールや文化施設の使用促進を図るという改善策があがっており、その具体化に期待したい。

5. 様々な体験活動による青少年の健全育成

2泊3日の6年生交流会が行われ、新たな交流ができ、他校のことを知り協調性を伸ばす機会となった。今後も継続的に実施して、魅力あるプログラムやスケジュールをさらに工夫していただきたい。通学合宿の取り組みが充実してきているが、地域にとってより魅力的な合宿内容や町の支援体制の検討を期待したい。

6. 「子どもの約束」の推進及び啓発

平成24年度に策定された「子どもの約束」に関して、周知のためのポスターを作成し、町広報紙等にも掲載して広く啓発を図っていることを大いに評価したい。子どものつどいで「子どもの約束」を活用したイベントを行ったことも優れた取り組みである。家庭への普及促進を図る方策を具体化していくとよいのではないかと考える。

7. 人権フェスタ及び人権セミナーの充実

人権フェスタ及び人権セミナーについては、自己評価がBとなっているので、今後の改善を期待したい。

8. 文化の振興

文化財の保存・活用についての自己評価がAとなるように取り組んでいくことを期待したい。

IV おわりに

各事業の点検・評価の結果，各担当の努力によって，教育施策の実現に向けて着実な成果を納められている。

毎年度，同じような取り組みや改善策があがっているものもあるように感じる。施策の特徴からして致し方ない面もあるだろうが，取り組みの観点を見直したり，課題を明らかにしたりして，改善に向けて取り組んでいただきたい。

学校教育に関する施策に関しては，コミュニティ・スクールを町内の全小・中学校に拡大して3年目ということもあって，熟議した内容を具現化すること等において着実な進展が見られるように思われる。学力向上や生徒指導等の課題に関しては，筑前町だけではなく多くの市町村が真剣に取り組んでいる。筑前町では，コミュニティ・スクールのよさを生かして，家庭と地域を巻き込んだ教育の成果をあげていてもらいたい。

社会教育に関する施策に関しては，社会教育委員の会議からの答申を受けて策定された，筑前町「子どもの約束」の啓発や普及促進の取り組み等において，今後も大いに期待したい。

平成26年度筑前町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書に対する意見

I 教育委員会の活動

1 教育委員会の会議の運営改善

毎月1回の定例会及び臨時会2回、計14回の委員会開催は大いに評価できる。

2 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信

委員会開催を公示やホームページで町民に周知しているということであるが、傍聴者が9名であるという現実をどう受け止めているのか。開催日を特定せず、次回の委員会を委員の都合で決定することは、傍聴を希望する町民に周知できていないのではないか。ここ数年この傾向であり、改善の兆しが見られず、町民への「～会議の公開、～情報発信」を真剣に考える必要がある。

例えば、委員会を土曜日・日曜日などの休日に開催するとか開催日を特定して町民が傍聴し易いように便宜を図るなどの、工夫をする必要があるように思うが如何だろうか。

3 教育委員会と事務局との連携

「～教育委員に情報提供がなされ共通理解が図られた」ということであるが、共通理解が得られたのだろうか。

4 教育委員会と首長との連携

首長は町民の代表であることから、首長との懇談会開催や研究発表会への出席要請など、連携を図る努力は評価できる。

5 教育委員の研修

研修会参加は当然としても、定例町議会を傍聴するなどの意欲は大いに評価できる。

6 学校及び教育施設に対する支援・条件整備

町内の4小学校、2中学校の学校訪問は、町内の児童・生徒に対する教育の実態を把握することにもなり、また筑前町教育施策を示すうえでも大切なことである。

II 教育委員会が管理・執行する事務

学校教育又は社会教育に関する一般方針を定め、「学校教育推進26」、「社会教育推進26」を作成し、全児童・生徒の家庭に配布したことは大いに評価できる。

しかし、全てを盛り込むあまり複雑で完璧過ぎるように思え、一般の保護者に理解してもらえるのか、また教職員や保護者が実行できるかなどの疑問もある。

さらに、評価報告書を見ると「～はなかった」、「～を準用」という点検・評価が多く、解釈に苦慮する。学校教育がすべてを背負い込む必要はなく、家庭教育や社会教育に任せられるよう自治区や自治公民館、関係諸団体を活用するなど、地域住民の理解と協力を得やすくする工夫も必要かと思う。

Ⅲ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

「学校教育の施策の重点」

1 地域に開かれた学校づくりの推進

地域に発信し、共に施策に取り組もうとする姿が評価報告書に見られ、評価できる。

「開かれた学校」とは、学校から地域への一方通行ではなく、町民が学校に興味・関心を示し、児童・生徒の教育を身近に感じ、自ら学校に何等かの形で関わろうと意識し、取り組む姿勢が見られるようになることだと思う。

2 確かな学力をはぐくみ、個性や能力を伸ばす教育の充実

児童・生徒の学力を伸ばすための教職員研修の体系化、ALTの活用など、町一体となった学力向上の機運の醸成に努めている取組は評価できる。

しかし、全国学力テストで福岡県は、いずれの科目・学年も全国平均より低く、筑前町もその平均辺りに位置しており、今後の教育施策と町民及び関係者の一体となった取組が期待される。

3 心づくり・体づくりの推進

筑前町には特産の麦（麦太郎）や大豆（筑前クロダマル）があり、農業も盛んである。食育推進の条件は整っており、心づくり・体づくりの今後の取組に期待したい。

また、児童・生徒が「自分の力が誰かの喜び、助けになることを実感し」社会の一員としての自覚が芽生え、自信に繋がるものと思われることから、家庭教育及び社会教育に対する啓発に努めて欲しい。

4 いじめ・不登校に対応する生徒指導体制の確立

過去の不幸な出来事繰り返さないためには、絵を描くだけではなく、足が地についた実行可能な施策と、町民・教育関係者が一体となった取組に期待したい。

5 特別支援教育の充実

発達障害等が疑われる児童・生徒に対する支援は勿論のこと、その保護者に対する支援、そして地域住民やほかの児童・生徒が理解できるよう、環境を整えることが大切であり、人権教育と併せて充実・推進されるよう期待したい。

6 人権教育の推進

この評価報告書から「人権教育の推進」と実行に努めていることが伺われ、大いに評価するとともに今後期待したい。

7 教職員の資質向上と人材育成

教職員は自らが受けた6・3・3・4、計16年の教育・研修を基に児童・生徒への教育を行っているが、当然、時代や社会の変遷とともに児童・生徒の教育に即さない面も派生しているのではと考える。

質の高い教育を目指すため、「教職員の資質向上と人材育成」の観点から、教職員自らが自らを高める努力と、教育委員会が教育施策として研修環境を整えていることは評価したい。

「社会教育の施策の重点」

1 特色ある学習プログラム提供による成人事業の充実

学校教育とともに社会教育の充実を重要視し、各種講座・学級を開講していることは評価できる。「町民のニーズをうまくとらえる」ことに止まることなく、筑前町のあるべき教育指針を定め、町民を誘導することも必要ではなかろうか。

2 こども読書活動推進計画をはじめとした読書活動の推進

「読書の日」を定着させ、また幼児に対する読み聞かせ会を行うなど、読書環境の充実に努めていることは評価したい。

3 生涯スポーツの普及促進による健康増進

スポーツ少年団の活性化や指導員の育成、ソフトボール大会やマラソン大会の定着に努めるなど、社会教育施策として推進されていることは評価したい。

一部の町民だけでなく、広く多くの町民がスポーツや運動をすることによって、健康増進に努めることができるような施策を望みたい。

4 多様なニーズに応える自主文化事業の充実

文化協会活動の推進やマンスリーコンサート開催に努めていることは、町民にも周知されており評価できる。

5 さまざまな体験活動による青少年の健全育成

通学合宿や子ども会議、交流会を行うなど、青少年の健全育成に努めていることは大いに評価できる。しかし、「～通学合宿を開催できるよう、各区の自治公民館で説明会を行う等の推進を行った」ということであるが、果たして町民に周知・理解されているだろうか。その努力も必要であると考ええる。

6 「子どもの約束」の推進及び啓発

行政が直接推進することも重要であるが、町民が理解し、自ら問題として考え、行動するよう啓発することも、教育施策の一つとして大切であると考ええる。

また、「家庭への普及促進を図る」ことは大切であるが、町民が何かを「してもらう」だけでなく、何かを自ら「しよう」とする意識付けにも努めて欲しい。

7 人権フェスタ及び人権セミナーの充実

フェスタ充実に腐心し、またセミナーについても「待つ」から「出向く」に変更するなど、積極的な取り組みは大いに評価できるし、今後の更なる努力に期待したい。

8 文化の振興

文化財を保護することは勿論大切なことであるが、町民が我が町の文化財を理解し、活用することができるよう、町民の意識を高めることも大切であると考ええる。

○ おわりに

教育委員会の我が町の教育に対する思い、そして実行に努めていることは理解でき賞賛もするが、何もかも背負いすぎているようにも感じられる。

教育には家庭教育、学校教育、社会教育がある。少子・高齢化は勿論、核家族化、生活の都市化の進展とともに傍観的な人も多くなり、家庭教育や社会教育が難しい局面にあることは理解できる。しかし、それらの人に動機付けを示すことも教育施策の一つと考える。

筑前町教育の方向付けを示し、町民が自らの問題と考え、行動するような意識付も大切であり、町民が「待つ」から「自ら行動する」よう啓発に努められることを望む。